

クラス	304	担当教員	東内 瑠里子
テーマ	子どもの声からはじまる保育アセスメント		
著書・論文 研究課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの学びを可視化するドキュメンテーション」『保育原理』学術図書出版、2025年発行予定。 ・「ファミリー・サポート・センター事業における特別な配慮の必要な家庭へのかかわり」日本福祉大学子ども発達学論集第17号、2025年発行予定。 ・「カイクを教材とした保育実践および保育者養成の展開と課題」日本生活体験学習学会第26回研究大会報告、2024年9月。 ・「第7章 幼児教育の歴史」『愛知県教育史 資料編 現代四』2025年発刊予定など。 		
ゼミナール概要			
キーワード：子どもの声、保育評価、子どもの主体の保育実践（「共感」「ひらめき」「子ども理解」を大切に）			
<p>目的、内容、方法、授業計画等：</p> <p>新たな保育評価の形態として、大人側のものさしではなく、子ども側のものさしで測るという形が注目を集めています。本ゼミは、「子どもは、何がおもしろいんだろう」「子どもは、何をしたいんだろう」を考えていきます。ゼミの内容は、ゼミメンバーが集まって意見を出し合い決めますが、たたき台として、以下のモデルを考えています。</p> <p><u>3年前期：2冊の文献を学習します。担当部分を割り振り、レポートします。</u> 4～5月：加藤繁美『保育の中の子どもの声：自分の声を聴きとられる心地よさ 多様な声を響き合わせるおもしろさ（希望の保育実践論 1）』ひとなる書房、2023年。 6～7月：松井 剛太、松本 博雄他『子どもの声からはじまる 保育アセスメント：大人の「ものさし」を疑う』北大路書房、2024年。</p> <p><u>3年夏休み：保育現場の見学（ゼミ生の学びたいことをもとに現場を検討）</u> ・豊川市 恵の実保育園など ・名古屋市 けやきの木保育園など</p> <p><u>3年後期：発達障がいがある子の世界をおもしろくしよう。</u> 半田市・武豊町にある発達障がい専門的支援のNPO法人 PakaPaka で、フィールドワークを行い、子ども理解を深めます。</p> <p><u>3年春休み：保育現場の見学（ゼミ生の学びたいことをもとに現場を検討）</u> ・名古屋市 かわまち夜間保育園など ・三重県 ことり保育園など</p> <p>4年：卒業研究に向けて調査・執筆（テーマは各自が設定します）</p> <p>【さいごに】 昨年までは、3～4年のゼミで竹のようちえんの運営を行ってきました。そこでは、子どもが自然の中で、自己発揮する姿を学んできました。ただ、次年度は4年ゼミ生がいないため、3年生だけで運営することは難しいのではないかと判断し、このような形としました。もし、集まったゼミ生が、「竹のようちえん」を運営したい、ということであれば実施することはできます。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>保育のあり方や、保育のものさしが、大きく変わってきています。3年前の卒業生が、「保育に正解はない」のではなく「保育には多くの正解がある」という言葉を残してくれました。あなたらしい、あなたに合う、保育のあり方を、考えてみませんか。</p>			